



須津ふれあいウォーキング



育成部長 鈴木弘美(川尻2)

今年はコースが変わり、「浮島沼自然公園」までのコースになりました。77名の参加者はそれぞれのペースでウォーキングを楽しみました。天候にも恵まれ、須津川越しの富士山がとても綺麗で疲れも吹き飛びました。このコースもオススメです。

題字・デザイン=望月 佑奈さん (中里4)

段々と、暖かくなり様々な事に新しくチャレンジできるような季節ですね。そんな春の暖かさの色合いや可愛らしい雰囲気文字の形にしてみました。

須津地区まちづくり協議会 広報
令和6年 3/1 No.21

編集・発行
一般社団法人 須津地区まちづくり協議会
事務局：須津まちづくりセンター
TEL：34-0004

第51回須津地区文化祭 『須マイル祭』

12月10日(日) 文化部 部長 青藤理恵(神谷3)

今回は、コロナ禍明け初めての屋外イベントありの文化祭。準備段階から役員さんをはじめたくさんの方々に協力していただき、開催する事が出来ました。当日は大勢の方々に来場いただき、楽しんでもらえて良かったと思います。



来場者数
小学校体育館 340名
まちづくりセンター 690名
夜間展示(前日開催) 21名

屋外イベント



須津地区文化祭 須マイル祭

須津まちづくりセンター展示

須津中学校生徒の作品



須津幼稚園児の作品



小学校体育館展示



須津小学校・須津児童クラブの作品



県下一斉補導



青少年指導員 班長 屋内 伸治 (江尾2)

12月15日(金)夜間、県下一斉冬季少年補導を実施しました。夏季(7月)と冬季(12月)に静岡県内の各地区で同時に実施される青少年の健全育成・非行防止に関する活動です。須津地区では、青少年指導員・町内会長会・地域安全推進会・育成部・小中PTA・須子連・保護司会・まちづくり協議会40名が3班にわかれて、中里、神谷緑町、神谷・増川の公園・駅・コンビニ等をパトロールしました。道で話をしていた中学生に帰宅の声掛け、公園でのゴミ拾いや危険な箇所のチェック等を実施いたしました。月1~2回実施している夜間補導の結果も含めて、須津地区は青少年の健全育成環境が維持されていると感じています。今後とも青少年指導員の活動に、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



青少年指導員の皆さん

須津まちづくりセンター 年末一斉清掃



渡邊 由佳 (まちづくりセンター職員)

12月26日(火)9時から約1時間程、日頃センターを利用されている自主グループの方や協議会の方が大勢参加してくださいました。皆さんで手際よくお掃除頂き、大変綺麗になりました。年末のお忙しい中、ご参加・ご協力ありがとうございました。



プロ級の腕前です



玄関前もピカピカに

須津中学校生徒会が募金活動 義援金13万円を寄付



須津中学校は、石川県で発生した能登半島地震の被災地への義援金13万7,338円を日本赤十字社を通じて寄付しました。生徒会役員が、1月15日(月)から19日(金)の朝、昇降口

で能登半島地震の被災者支援の募金活動をして集めました。

まちづくりセンターで贈呈式が行われ、生徒会役員が伊藤仁教センター長に浄財を手渡しました。募金は、生徒の小遣いやお年玉、家族の協力もあったそうです。義援金は富士市福祉総務課から日本赤十字社を通じて石川県に届けられます。



すと福祉健康セミナー 2023

生きづらさ、働きづらさを抱える人々に寄り添う地域をめざして

福祉健康部門長 鈴木登起子 (江尾2)

2月3日(土)福祉健康セミナーを開催しました。今年度のテーマは「障害者就労について考える」。地域の支施設勤務の方々を始め沼津市からの参加も頂き、スタッフ含め60名の賑やかなセミナーとなりました。民生児童委員の池田敦子さんによる日本理化学工業の視察研修報告、「チョコレートな

人々」映画上映後、グループ別感想交換会を行い、活発な感想が飛び交いました。福祉従事者の経験値に基づく深い感想もあり、今後の部門活動に活かしていきたいと思いました。

参加された皆さんの感想より



障害を個性と捉え特性、性格、能力に合った支援が効率良く出来たら理想。

障害者だけでなく、その家族への支援も大切。

映画を見て意識が変わり「出来ない!」では無く、可能性を探り、見つけ、広げたい。



須津地区まちづくり協議会 ホームページを開設しました

<https://sudomachikyo.com/>

随時更新予定です

右のQRコードよりご覧ください



小正月の風物詩 どんどん焼き



中里3丁目 氏子会館

1月13日(土)正月飾り、だるま、お守りやお札、書初めを燃やして家内安全、無病息災、五穀豊穰を願いました。強風でしたが大当番の皆さんののおかげで無事に終わりました。子どもたちも焼いたお団子を食べ、一年間健康に過ごせることでしょう。

シリーズ夢を創る

NPO法人はっぴい 理事長

高橋美喜さん



高橋さんは、須津中の卒業生で、現在、障害児福祉の最前線で活躍し、その発信力、行動力で注目を浴びる方である。「自分らしく生きる覚悟を決めた女性たち」という本で取り上げられている女性の一人でもある。

富士市神戸に高橋さん運営の施設がある。放課後等デイサービス、短期入所、日中一時支援と多機能型事業所としての奮闘のみならず、職員の働き方改革として、企業主導型事業所を立ち上げることで、職員の子供の保育無料化を実現している。

高橋さんが障害児福祉事業を立ち上げた大きなきっかけは、障害児を授かったことであった。4歳で胃の再建手術を受け、てんかんの薬を服用していた1年生の時、預けていた外部の放課後等デイサービスの支援員に虐待を受けていたことが判明。我が子や障害をもつ子供に寄り添った支援をする必要性を強く感じ、2年生の時、放課後等デイサービスの事業所を立ち上げた。

高橋さんは、前夫のDVが原因で離婚を経験。障害児を含めた4人の子供を育てながら福祉事業を起こし、更に関連事業を加えていくそのバイタリティには驚くべきものがあるが、その裏づけとも言える学びや資格取得を疎かにしていない。更に、高橋さんの理念に共感し、共に働く職員

の支えは大きいものがあると思える。高橋さん自身の過酷な経験を、困っている方々の生きる力に変える逞しさに感動させられた。

(記I・H)



わたしのふるさと

私の故郷は、山口県岩国市です。

幼少期から、高校を卒業するまで過ごした所です。その後、広島での4年を経て、昭和47年富士市に生まれました。

私の住んでいた岩国市は、大手製紙会社の社宅、隣接して化学繊維会社の社宅もあり、一時は数百世帯の長屋やアパートがありました。地区の小学校も、生徒数1800人余りのマンモス校でした。岩国と言えば、第一に錦帯橋。木造のアーチの構造美と、下を流れる清流錦川、岩国城と武家屋敷の調和は、訪れた人を必ず魅了します。しかし私の中では、米軍海兵隊岩国基地。毎日頭上を飛び交うジェット機とその爆音、基地内で初めて口にしたコーラ、濃厚なアイスクリームの味など鮮明な記憶として残っています。今では岩国の街もすっかり変わりましたが、是非、名橋を着に銘酒を味わいに訪れて下さい。



by 東上 卓二 (神谷2)

編集後記

12月の町内防災訓練で、真剣にAEDの使用体験をする中学生たちの頼もしい姿を見た。

能登半島地震。目を疑うような光景に、自然の力の恐ろしさを見せつけられた。平和な日常生活に感謝するとともに、家族でいざという時の備えについて話をした。互いの連絡方法・備蓄品・避難所等。地域の人達たちと繋がる防災訓練も、備えの一つとして、中学生を見習い真剣に参加したいと思う。(クララ)



須津のれきし探訪 (シリーズ第21回)

須津と江戸I 須津地区の「殿さま」⑨ 神谷村の殿さま 大久保氏①

杉本 寛郎 (富士山かぐや姫ミュージアム学芸員)

神谷村の殿さまも中里村と同じで、徳川一門の領地からはじまり、幕府直轄領を経て、宝永三年(一七〇六)から私領大名や旗本の領地となりました。このときの殿さまは大久保教寛という人物で、小田原藩主大久保忠朝の二男でした。教寛の経歴は、五代將軍綱吉の小姓からはじまり、旗本となり、小姓組番頭・書院番頭も勤めました。小姓組や書院番は、江戸城諸門の警固や將軍外出時の身辺警固、儀式の際の給仕役などが主な仕事で、番頭はそのトップで管理職にあたります。いわば將軍の親衛隊長です。その後も側衆・江戸城西ノ丸の若年寄といった幕府要職を勤めました。教寛は、兄・忠増が小田原藩を継ぐ際、六千石を分けてもらい、その後神谷村を含む富士・駿東郡内の五千石を増され、一万一千石の大名となりました。本拠地を松長村(沼津市松長、西友や餃子の王将があるあたり)においたため、駿河松長藩といえます。

